好偶

基礎ゼミ（グループ 1）「第 4 章　ひとと議論して考える」
2007/05/29
役割分担
進行者：
発表者：
プリント責任者：
討議会場:C棟1階　A棟1階　**討議日時**:5/23(水)　5/26(土)　5/27(日)
p.86

●ひとと議論して、はじめて自分が見える
・私達は、ある特定の視点から物を見ている
・見えていないものは、自分では気づかない
・議論して、はじめて見え方の違いに気づく

●議論とは、相手を言い負かすことではない
・議論とは、意見の食い違いの根っこを共同で探すこと
・質問や反論は、あなたへの攻撃ではない
・議論を避けていると、成長できない
・すぐに「見解の相違だ」と決めてはいけない

●議論では、各自が自分の主張の論拠をあげる
{議論においては}

あげられた論拠以外に、暗黙の前提はないだろうか
あげられた論拠は、真だろうか、
論拠が真であるなら、主張も真になるだろうか

を皆でチェックしよう！

●議論では、論理的に話を進めよう
前提が真ならば、結論も真となる
----これが正しい推論、論理の根本

●論理的に考えるために
鉄則 1　前提をチェックする
鉄則 2　逆は必ずしも真ならず
鉄則 3　~~待遇~~が成り立つか

●1 議論して、はじめて自分が見える

あなたはサークル恒例の OB・OG との交歓会の企画をたて皆に提案した
けれど、あなたにとって最善と思えた結論だったが、予想とは違い議論は続いた

結果的に・・・
人と議論する事によって、はじめて自分が限られた視点から、ものを見ていた、ということに気づく。これが議論する事の効用である。人と議論する事を重ねることによって、私達は成長していくのだ。

●2 議論するとは、相手を言い負かすことではない
・議論とは口論ではないし、相手を説き伏せて同意させることでもない。
　議論とは、皆が納得できる結論を探す作業である。
議論とは

1、各自が自分の考えの論拠・理由を示し
2、示された論拠・理由が、適切かどうかを、互いに検討し
3、納得のいく判断を共同で探していく

という作業である。
議論とは他人と共同で推論することである。

■議論を避けることは、間違いを放置することにつながる
先の交歓会の議論の時のように、あなたは議論することによって、はじめて自分の考えの不十分さに気づくのである。だから、意見が食い違った時、議論を避けず、そして「考え方が違う」・「価値観が違う」といった決まり文句を乱発してはいけない。

■質問・反論は、攻撃ではない
あなたの意見が反論されても「自分が否定された」とは感じず、喜ばしいことだと思おう。

■議論のマナー
1 相手が誰であれ、あくまで対等に話し合う。
2 相手の言い足りない部分を理解するよう努力する。
3 論理的に議論する。
4 お互いに、自分にとって都合の悪い事例・データを重視して、話を進める。
5「やっぱり」とか「なんと言ったって」という言い方で、決め付けない。
6 相手の性格・人格の弱点を議論に持ち込まない。
7 自分が少数派であることを気にしてはいけない。

●3 議論するには、論拠をあげる

議論≠主張のぶつけあい
----大事なのは、めいめいが、自分の主張の論拠を明らかにしようと努めること。
論拠を示して論証する≒その論拠を前提とすると、正しい推論のよって、あなたの主張が帰結するということを示すことである。
正しい推論≒前提が真でありさえすれば、結論も必ず真となる。
論理的に議論する時に最も大事なのは、推論に前提は真でなければならない。もし自分が前提している(暗黙の前提)が偽である時には、論拠をあげても、主張を支える力を持たない。

●4 暗黙の前提に注意する

ある結論をだした時、前提に漏れがないかをチェックしよう！（正しく推論したのに、得られた結論が疑わしいときなど）

●５逆は言えるか？

前提が真であっても、結論が真とは限らない場合がある。

●６推論と条件文、「ならば」の逆

「A ナラバ、B」という条件文が真である時、さらに「B ナラバ、A」という逆も成り立つかをチェックしよう！
※ある条件文が真であるからといって、その逆も必ず成り立つわけではないことに注意！

●７必要だが、それだけでは不十分

「A ナラバ、B」という条件文の逆、「B ナラバ、A」が成り立たない時、B は A であるための必要条件(のひとつ)にすぎない。

●８それが成り立っていれば十分

「A ナラバ、B」という条件文が成り立つ時、B は A であるための必要条件であり、A は B であるための十分条件である。

●９対遇に注意する

一般に、「A ナラバ、B」が真である時には。「B ではないナラバ、A ではない」もまた真である。→このような関係を対偶と呼ぶ。
「A ナラバ、B」と思える時、「B でないナラバ、A でない」といえるかチェックしよう！

●１０格助詞の「は」に気をつけよう(1)

なぜ気をつけるのか？
↓
「○○は、××である」の文章は“集合同士”の関係、集合の部分集合になっているといった意味が込められているから！

●１１格助詞の「は」に気をつけよう(2)

・「○○は××である」という形の文は、集合と部分集合の関係を示すだけではない。
・「主語＋述語」の形の文が、論理的にはどのようなどのタイプの内容を表しているのか？話が込み入ってきたら、これをチェックしてみよう！
・記号の便利さを利用しよう
Ex)　３を二倍にした数は、５よりも大きい。→　３×２　＞５

●１２議論におけるさまざまな食い違い

意見が食い違ったときの、目のつけどころ
１言葉の意味に食い違いはないか

2 自分あるいは相手の判断は、何を論拠にして出てきたのか
3 事実に関する見解の違いと事実の評価の違いを混同してはいないか
4 共有している論拠の理解の仕方に食い違いはないか
5 自分 or 相手の主張にまだ語られていない前提があるのではないか
6 自分 or 相手は誤った推論をしているのに気づいていないのではないか
7 異なる論点を区別せず、まぜこぜにして話し合ってないか・・・
こうしたことを皆で検討することが大切!!

●13 議論を生産的に進めるために

・議論を進めるためには、共同で作業しようとする姿勢が必要となる。
・議論に参加するためのコツ

その壱　自分がバカと思われるのではないか、という気遣いをやめるべし
その弐　気になった単語だけでいいから、メモしながら人の話を聞くべし
その参　その単語には、「？」「！」という記号をつけるなり、○で囲むなりすべし
その四　そのメモを見ながら、「ちょっと聞いていいですか？」の一言だけでも発すべし

・「話の腰を折る」ということは大切

●14 第三者の前で議論してみよう

・ディベート
ディベートは相手を言い負かすテクニックの実習ではない
・ディベートの進め方
1、 テーマを決める
2、 役割を決める
3、 主張・質疑応答を行う
4、 休憩をとりながらそれぞれのグループで話し合う
5、 話し合いを元に、それぞれ相手の主張への反論を行う。ジャッジは採点を修正する。
6、 3 から 5 の過程を積み重ね、最後に全員で討論する。